施設分離型小中一貫教育校

にのみや学園通信

R8.11.6
第45号

一色小学校における第1回校内研究授業プロジェクト



小学校でも2学期に入ってから、各校において校内研究授業プロジェクトが本格的に始まっています。9月28日（月）に一色小学校にて校内研究授業が行われました。3年1組の担任である吉田将吾先生が社会科の研究授業（地域の安全を守る　～火事からまちを守る）を行いました。



吉田先生は、前時に行った『一色小の消防設備を調べよう』の確認から授業を立ち上げました。まず、完成した一色小の消防設備図を見ながら、消火器・熱感知器・煙感知器・消火栓・防火扉の場所をクラス全体で確認した後、児童たちに「何か気付くことはありますか？」と問いかけました。それを受け、児童たちは自分の考えをノートに記述した後、「熱感知器は全ての部屋にある」「防火シャッターは全ての階にない」等の自らの気づきを積極的に発言しました。

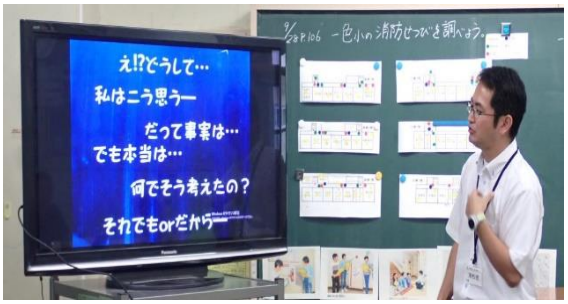
それらの発言を受けた後、吉田先生は「一色小学校は、どこで火が出ても安全だろうか？」とさらに問いかけました。児童たちは先生が事前に用意した動画を視聴しながら、危険な箇所と思われる場所でも、消火栓のホースを繋ぐなどの工夫がされ、安全が確保されていることを仲間と共に確認しました。授業を参観していた山口教頭先生からの「絶対の安全はない。火事を発生させない工夫、発生した時の対応が大切であり、これらが法律で決まっている。だから避難訓練も行われている。」という話をしっかりと聞いた後、本時で学んだことをノートに記述しました。

児童たちの学びの姿から、自分たちで消防施設を確認し作った消防設備図を基に防火に対して実感の伴った深い学びができていること、そして、日常のあらゆる生活の中でも活用できる『確かな知識』として習得できていたことを感じることができました。



今年度、一色小学校は『見方・考え方を働かせ、認め合い高め合う一色の子を育む授業づくり　～逆算して考え、発問と資料掲示で作る授業デザイン～　』を研究テーマに授業研究を重ねています。授業後、すべての教員が一同に会し、研究授業を振り返りました。

まず授業者である吉田先生からは、「知識から自分たちの学校を考えられるような単元計画を考えた。子どもたちに自分事として考えられるようにするために、毎時間の振り返りシートを活用した」という自評がありました。その後、参観者がグループごとに授業についての話し合いを行いました。『安全』という言葉の捉え方が児童によって違っていたので安全の定義が必要だったと思う。等の感想が発表されました。



引き続き、校内授業研究の講師である筑波大学附属小学校の鈴木遼輔先生より講話をいただきました。先生からは、社会科の授業ではとかく知識の教え込みになりがちである。知識を自ら獲得していくように支援していくことが大切であり、子どもの言葉で問いを作っていくこと、そして常に問いを子どもに返してあげることが有効であるという助言をいただきました。さらに、分かっているつもりと分かっているとは違う。知識は教えるのではなく、子どもに獲得させるものであり、『子どもの手柄』にさせることが大切であるという指針をいただきました。今回の授業研究には中教育事務所教育指導員の松本先生も参加してくれました。鈴木先生、松本先生ありがとうございました。研究会に取り組む一色小学校の先生方の姿には、今後も子どもたちと共に学び続け、教師として成長していこうとする前向きさを感じました。・・・すべては「にのみや学園の子どもたち」のために・・・

感想等はこちらのフォームにお願いします。
にのみや学園通信 HP
https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html